

エル・セニョール・デ・ロス・ミラグロスについて

「EL SEN~OR DE LOS MILAGROS DE LAS NAZARENAS（エル・セニョール・デ・ロス・ミラグロス・デ・ラス・ナサレナス／ラス・ナサレナス教会の奇跡の主）」。
リマのカトリック信者たちに最も信仰されているキリスト像です。

ペルーがスペインの植民地だった頃の 1651 年のこと、現在のペルーの首都リマでも特に貧しい人々が住んでいた地域で、敬虔な信仰を持っていたある黒人奴隷がレンガの壁に主キリストの磔刑像を描きました。

1655 年 11 月の大地震でリマ周辺は多大な被害をうけましたが、不思議なことにこの絵が描かれた壁は崩れませんでした。

その後この絵に屋根や飾りをつけて熱心に祈っていた人の病気が奇跡的に治ったり、1687 年 10 月に起こった大地震でもこの壁が無傷だったりと、いくつもの奇跡が起こったことから、この絵は「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」日本語で言うと「奇跡の主」と呼ばれるようになり、これと同じ聖画像を描いて神輿を担いて奇跡をたたえる聖行列（プロセシオン）が毎年 10 月に行われるようになりました。

現在この聖行列は毎年 10 月第 1 土曜と 18、19、28 日、そして 11 月 1 日の 5 回行われていて、その神輿は、重さ約 2 トンにもなり、屈強な男性信者たちがその重さに耐えつつ粛々と街を練り歩くその姿に、人々はキリストの苦悩を重ね合わせるのだそうです。

聖行列には信徒たちは主キリストのご受難にちなんで、青みがかった紫色の衣に身を包んで参加することから、ペルーでは 10 月のことを「紫の月」とも呼んでいるそうです。

セニョール・デ・ロス・ミラグロスは現在では世界各地でそこに住むペルー人を中心に行われるようになっており、バチカンでも聖行列が行われて教皇様の祝福を授かっています。

ペルーの方々をはじめ、祖国を遠く離れて暮らしている私たちの共同体の外国のみなさんのことを思い、私達も一緒に今日の日の祈りを捧げたいと思います。